

見を示す。黒色にみえる網目状構造(らせん状文様)は生殖器官で、着色した虫卵の存在による。組織学的には、黒褐色の虫卵を容れる子宮と精子で充満する精巣が、粗な基質内に分布している。口吸盤には平滑筋がよく発達している(図8)。

参考：槍形吸虫症 *dicrocoeliasis*

槍形吸虫 *Dicrocoelium dendriticum* は、中間宿主がすべて陸生生物である例外的な吸虫である。成虫はヒツジやブタの胆管に寄生する。カタツムリで発育したセルカリアは、数百匹が一団となった粘球 slime ball として排出される。この粘球を食べたアリが第二中間宿主となる。

参考文献

1) 大島智夫：人肝蛭症。最新医学 1989, 44 : 856-860

- 2) 藪剛 爾, 上野徹男, 清沢研道：肝蛭症。消化器内視鏡 1993, 5 : 1667-1672
- 3) Maruyama, H., Noda, S., Nawa, Y. : Fascioliasis cases recently found in the southern part of Kyushu District, Japan. Jpn J Parasitol 1996, 45 : 247-254
- 4) 磯田幸太郎, 加来誠一郎, 大橋 一ほか：相異なった臨床所見や肝病理組織像を呈した兵庫県美方郡村岡町における2例の人肝蛭症。Clin Parasitol 1996, 7 : 126-130
- 5) Takaoka, H., Mochizuki, Y., Hirao, E. et al. : A human case of eurytremiasis : Demonstration of adult pancreatic fluke, *Eurytrema pancreaticum* (Janson, 1889) in resected pancreas. Jpn J Parasitol 1983, 32 : 501-508

コラム

閉経の話

ずいぶんと以前の話になるが、高崎山のボス猿が他のグループのおばあさん猿に人目ぼれ。自らのグループを飛び出したおかげで、今では一挙に最下級の兵卒に成り下がっているというニュースが、面白おかしく報道された。確か、朝日新聞の天声人語にも取り上げられたと思うが、相手の魅力的なメス猿は、ヒトでは70歳に相当するとか。ここでは、このことに対して一言もの申す。

ある深夜番組での特集。動物園の園長さんの話に驚かされた。日本猿には閉経がないというのだ。閉経という現象が認められる哺乳動物は、ヒトと飼いイヌ・飼いネコを除くと、自然界では、例外的にゾウがあげられるが、実際に閉経となったメスゾウは、自ら群れを離れて死んでゆくのだそうだ。その深夜番組の主題は、「だから、長い老後のセックスをエンジョイしましょう」だったのだが——。たしかに、50歳で閉経の後も、それまでの生殖可能期間と同じくらい生きる現在の日本人にとって、この主題が重要な意味をもっていることは否定しない。

上の2つの話をつなげてみよう。かの若きオス猿はなぜ、年増猿に走ったのか。疑いなく、彼女にまだ妊孕性があり、

強烈なセックスアピールをもっていたからである。つまり、猿をヒトの年齢に換算する際に、ヒトの寿命を80歳とした点に誤りがある。日本人が80年も生き長らえることが、生物界からみると異常なのである。彼女は彼氏の前で、40台(中年)の魅力を存分に発散していたとみなすべきであろう。寿命の点では、昔の日本や現在の発展途上国のほうが正常(生理的状态)に近いと考えるほうが妥当ではないだろうか。

サケは、急流をさかのぼり、排卵および射精をするとまもなく死亡する。下垂体前葉壊死による急性下垂体機能不全症が死因である。セミも交尾・排卵を終えると、その短い生涯を閉じる。がんを含めた成人病が50歳以上のヒトに急激に増加するのは、いってみれば、きわめて自然な現象なのである。医療を始めとするさまざまな人間科学の進歩・普及は、間違いなく私たち「人間」(個人)の生活に快適さをもたらしてくれているが、いったい、「人類」という哺乳動物の種の保存に本当に前向きに貢献しているといえるのだろうか。

(医学のあゆみ 1995, 172 : 135 より転載)